

地方の常識

地域特性を活かした独自規格

第11回

「ピーター」の謎 なぜ除雪機をピーターと呼ぶのか？



写真2 ロータリー式除雪車による当時の除雪風景(出所:郷土出版社「上越市今昔写真帖」)

今 回は、新潟県上越地方において、降り積もった雪を吹き飛ばすロータリー式の除雪機を「ピーター」と呼ぶようになった理由について紹介する。

除雪機は、雪国では道路の除雪だけではなく各家庭でも必要不可欠な機械である。冬季、各家庭では夜間に降り積もった雪を毎朝除雪する必要がある。そのときに力を発揮するのが、雪を遠くに吹き飛ばすロータリー式の除雪機である。



写真1 家庭用小型のロータリー式除雪機(提供:本田技研工業(株))

ロータリー式の除雪機である。

家庭向けの小型の除雪機は、農機具店などで販売されている。これらは主に汎用型エンジンを使用しており、メーカーは、農業機械メーカーに加えて、自動車メーカー、二輪車メーカー、建設機械メーカーなど多様である。価格水準も多様であるが、普及タイプで価格30万円程度からある。全国の販売台数は、年間約3万台ほどである。主に市街地郊外では高出力型が、市街地では早朝より除雪作業を行う場合も多く、近隣への配慮から騒音を抑えたモデルが購入される場合が多い。

新潟県上越地方では、ロータリー式の除雪機(除雪車も含む)を「ピーター」と呼んでいる。この「ピーター」という呼び名は、同地方と長野県北部の一部のみであるという。この名前の由来は、上越に住む人たちの中でもあまり知られていない。

「ピーター」の名前の由来は、1960年代、当時、使用されていたロータリー式の除雪車の製品名が「ピーター」であったことに

由来するという。

1963(昭和38)年1月、「サンパチ豪雪」と呼ばれる記録的な豪雪となる。これをきっかけに日本の湿った重い雪に対応した除雪機の開発に国が着手した。当時、活用可能な国産技術はなく海外の技術を活用した。1964年、酒井重工業がスイス・ピーター社との技術提携によりロータリー式の除雪車の製造を開始した。1965年、上越市高田で初めてロータリー式の除雪車が出動し、この除雪車の製品名が「ピーター」であった。道路に大量に降り積もった雪を吹き飛ばす状況をみた人びとが、除雪車のことを「ピーター」と呼ぶようになったと考えられる。

なお「ピーター」という呼び名の由来の詳細については、上越タウンジャーナル2010(平成22)年2月17日号を参照されたい。50年前の除雪技術開発の背景を知ることができ、非常に興味深い。同誌では、「空高く雪を吹き飛ばす様子は珍しく、子どもたちに大人気だった」と当時の工

ピソードを紹介している。ロータリー式の除雪技術は、夢のようなドキドキワクワクする技術であったのである。

雪国にとって除雪は、重要な日課である。降り積もった雪を吹き飛ばすロータリー式の技術は、子どもも大人もわくわくする技術であり、その技術の頼もしさが背景となり、当時の呼び名が今日まで続いているのではないだろうか。このような姿も地域と一体となった技術の一つの姿であろう。

参考文献

(1)上越タウンジャーナル、平成22年2月17日号、<http://journal.jp/archives/532>

菅沼祐一 編集委員